

高校生英語ディベート

佐野高堂々全国5位

【佐野】佐野高SGH（スーパーグローバルハイスクール）クラブディベート班が、このほどオンラインで出場した第15回全国高校生英語ディベート大会で5位、第6回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会でベスト8の好成績を収めた。それぞれチームワークの良さを要因に挙げており、江部青飛^{（17）}は「英語力や知識、本戦の心構えなど後輩たちに伝えていきたい」と意欲を見せている。（藤田りか）

即興型大会もベスト8



二つのディベート全国大会で好成績を収めた佐野高SGHクラブディベート班

全国高校生英語ディベート大会は64チームが参加。

江部さんと小林杏珠さん^{（17）}、岡部豪太さん^{（17）}、兵藤かほるさん^{（18）}の2年生チームが出場した。論題は県予選と同じ「日本政府は、（ハイブリッド車も含む）化石燃料車の製造と販売を2035年までに禁止すべきである」で、予選での弱点だったデータ

の活用を強化し、的確な事例と構成で展開した。米国に留学し英語力を高めた兵藤さんは「データ収集で1年生の協力が大きく、出場者は議論に集中できた」と振り返る。

その場で出された論題で議論するPDA高校生即興型英語ディベート全国大会にも64チームが参加。2年生新井優平さん^{（17）}、1年横塚功樹さん^{（16）}、同土屋史輝さん^{（16）}が出場した。3人は「マスクの着用を

義務化すべきだ」「メディアが自殺のニュースを報道すべきではない」などタイムリーな四つの論題で議論を展開した。ベストディベーターに選ばれた新井さんは柔軟な対応力が持ち味で「あらかじめ論題を想定して臨んだ。満足のいく成績」と話す。

生徒たちはチームワークの良さと仲間同士の技量を高め、着実に力を付けた。その上で、顧問の川俣海瑠^{（25）}は「全国大会出場決定後、県内強豪校から具体的なアドバイスを受けた。大きなアドバースをいただき好成績につながった」と支援に感謝している。

下野新聞

2021年2月21日付

25面